

とびひ・イボ・やけど・あざ・怪我の傷跡

医療法人 村田クリニック

こちらを受診されるお子さんで、多い症状はどういったものがありますか？

夏場は、とびひ・あせも、冬場には、乾燥肌やアトピーが多く見られます。

とびひは一ヶ所でもじゅくじゅくしていると悪化するので、自己判断の治療をせずに、なるべく早く皮膚科を受診してください。また「子どもに魚の目ができました」と来られる患者さんを診ると、イボのことが多いです。イボは、ウイルス感染になりますから、放っておくと大きくなったり数が増えてうつつたりします。水イボも小さいお子さんに多い皮膚病ですが、冬場で肌が乾燥していたり、元々アトピーがあつて肌がかさかさしている子の場合、短期間で増える場合があります。治療としては、一個一個ピンセットで潰すので痛いんです。ですから、なるべく数が少ないうちに受診していただく方がいいと思います。

子どものあざは治療できますか？

あざは生まれつきのものもありますので、来られる方は多いです。治るあざと治療が難しいあざ、手術が必要なあざ、レーザー治療ができるあざがあります。長期置いておくと将来的に悪性

化するタイプも、まれにあります。レーザー治療の場合、身体の小さいうちにした方が、範囲も小さくて狭いですし、効率もよく、保険も乳幼児医療が使えるので治療費も低く抑えられます。全身麻酔の治療が必要な広範囲の場合は入院ということもありますので、その場合は大きい病院でお願いする場合があります。あざによっては、どういう治療法があるのか、料金がどのくらいか、保険が効くものと効かないものがありますので、まずは受診をしていただくといいでしょう。

やけどをした場合の対処法は？

応急処置としては、十分冷やしてください。救急車を呼ぶような広範囲のやけどは冷やすとかえって低体温になつてしまう可能性があります。小さなやけどであれば水道水で30分以上冷やし、アイスノンや氷水などで冷やしながらか受診するといいでしょう。

浅いやけどの場合は、皮膚が下から再生して元に戻りますが、深いやけどの場合は、皮膚の再生能力がなくなつてしまいますので、瘢痕(やけど痕の状態)になってしまうことがあります。ただ、昔であれば傷痕になつてしまう深

さのやけどでも、医学は進歩していますので、より痕が残らないようにすることができるようになっています。やけどは皮膚科でも診てもらえますが、手術が必要になってくる場合の大きなやけどは、形成外科で診てもらった方がいいと思います。

怪我の傷痕が気になるのですが…

子どもは怪我をすることも多いと思いますが、傷痕を残したくないというのが親心だと思います。形成外科というのは、綺麗に傷痕を治すというのが得意分野になりますので、傷痕を治したい場合は、形成外科で傷を診てもらった方がいいです。形成外科は怪我ややけど、先天的なあざなど、皮膚の対表面の異常や損傷を修復してより正常な状態にするという治療をしています。

